

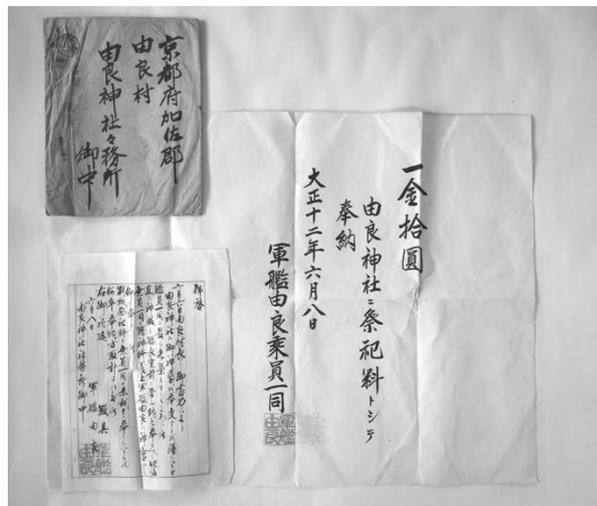
令和3年度 ACTR

分類 番号	A2	取組 名称	「海の京都」の拠点・宮津市由良の「船」に関わる遺産の発掘・活用 —由良神社を中心に—
研究代表者所属・職名：		文学部歴史学科・准教授	氏名： 岸 泰子
研究担当者： 京都府立大学（東昇、藤本仁文、菱田哲郎、上杉和央、諫早直人） 外部分担者・協力者（稲穂将士氏 ほか）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府宮津市 など			
【研究活動の要約】			
<p>本研究は、「海の京都」の拠点となりうる宮津市由良地域、特に由良神社に残る北前船・旧海軍の軽巡洋艦由良に関わる文化遺産を発掘・評価し、それを活用できるモデルを構築することで、地域の活性化に貢献しようとするものである。</p> <p>令和3年度は、由良神社が所蔵する社殿の整備に関する文書や指図、由良艦に関する文書、神社に残る狛犬の調査のほか、北前船に関する文書の調査を実施した。また、これらの価値を広く周知すべく、成果報告会を開催した。さらに同地域で活動する民間の研究団体と協働で報告会や調査等を行うことで、大学・地域・民間が一体となって文化遺産を活用する体制の構築を試みた。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>由良神社が所蔵する文書等から、軍艦由良・海軍と神社との関係、神社の境内整備（社殿造営）の様相などが明らかになった。また、地域全体で由良神社の社格上昇に対して取り組んでいた様子も明らかとなり、神社を中心とした由良地区の近代の歴史が明確となった。</p> <p>さらに、本殿前にある狛犬の3Dスキャンを行ったことで、この狛犬が丹後地域独特の形状を有した江戸時代のものであることも明らかとなった。</p> <p>なお、由良地区にある文書の解読も行っており、その史料からは北前船の活動、北前船の活動を支える地域の社会構造などが明らかとなりつつある。</p> <p>これらの研究成果の一部については、下記に記す調査成果報告会（対面・オンライン）において、地元ならびに全国の関係者に還元した。加えて、これらの成果を広く周知するため、成果をまとめたパンフレットを学生が作成した。構成からデザインまですべて学生が行うことで、新たな視点から見た由良地域の魅力を提示することができた。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>調査成果報告会 令和3年12月5日 実施方法 対面・オンライン（zoom使用） 対面場所 由良地区公民館 参加者 対面 65名、zoom 15名</p>			
【お問い合わせ先】			
<p>文学部 歴史学科 准教授 岸 泰子 Tel: 075-703-5280 E-mail: kishi@kpu.ac.jp</p>			

参考（イメージ図、活動写真等）



調査成果をまとめたパンフレットの表紙



由良神社所蔵の軍艦由良関係の文書



調査成果報告会風景